

第1章 研究の概要及び経緯

研究の概要及び経緯

渡邊 章
(教育研修情報部)

I 研究の目的

近年の急速な社会の情報化の進展に伴い、障害のある児童生徒の教育に関する情報提供体制を整備していくことは、重要な課題のひとつとなっている。そのため、本研究では、現在の社会状況において求められる障害のある児童生徒の教育に関する情報提供体制やインターネット等の情報通信技術を活用した研修等の在り方について明らかにすることを目的としている。

すなわち、本研究では、わが国の障害のある子どもの教育に関する情報提供体制をどのように構築していく必要があるのかを検討するとともに、近年さまざまな分野で活用が始められているeラーニングの障害のある子どもの教育における利用の可能性について検討を行う。

II 研究の概要

1. 研究の重点課題

上記の研究目的のために、本研究では、以下のよう重点課題について検討を行った。

1) 障害のある子どもの教育に関する情報提供体制の在り方についての検討

本研究の重要な課題として、障害のある子どもの教育に関する情報提供体制はどのように構築していく必要があるのかを明らかにすることがある。本研究では、まず障害のある子どもの教育に関する Web サイトによる情報提供の現状と課題を明確にするために、都道府県・指定都市の教育委員会の Web サイトによる情報提供、教育センター及び特殊教育センターの Web サイトによる情報提供、盲・聾・養護学校の Web サイトによる情報提供の現状と課題を把握するための調査を行った。また、併せて国立特殊教育総合研究所の Web サイトに求めるものは、どのような情報かについての資料も収集している。この調査の結果を踏まえて、障害のある子どもの教育に関する情報提供体制の在り方について検討を行った。

2) Web アクセシビリティの向上に関する検討

障害のある子どもの教育に関する情報提供体制の充実を目指す上で、重要な課題となるのは、Web サイトのアクセシビリティの向上である。本研究では、この

アクセシビリティの向上について、どのようなことが課題であるか、それに対してどのような取組が必要かということ明らかにするための検討を行った。また、この検討の一環として、盲・聾・養護学校の Web サイトのアクセシビリティについて調査を行っている。

3) eラーニングの活用に関する検討

近年の急速なインターネット利用の拡大に伴い、さまざまな分野で、eラーニングの活用が行われるようになってきている。このeラーニングは、障害のある子どもの教育においても、大きな可能性を持っていると思われる。本研究では、障害のある子どもの教育の分野における、eラーニングの効果的な活用について検討するために、モデル講習会を実施し、その中でeラーニングの具体的な活用方法及び課題について検討を行っている。

また、上述の教育委員会、教育センター及び特殊教育センター、盲・聾・養護学校の Web サイトによる情報提供の現状と課題についての調査において、すでにeラーニングの活用を行っている回答のあった教育センター3機関に、これまでの取組について事例を紹介していただいた。

なお、本報告書に掲載されている取組事例においては、「eラーニング」という表記の他に、「e-Learning」あるいは「e-learning」という表記を併用している。これは、各機関の取組で利用している表記を尊重しているためである。

4) 海外における情報提供体制についての検討

海外における障害のある子どもの教育に関する情報提供の状況やeラーニングの活用に関する取組についても資料の収集を行った。

2. 研究実施体制

本研究は、以下のような体制で実施した。

1) 研究分担者

所内研究分担者による研究の推進を行った。所内研究分担者は、下記の通りであった。

渡邊 章 (研究代表者)

小野龍智 (サブリーダー)

中村 均

渡邊正裕

中澤恵江

渡辺哲也

新井千賀子

2) 研究協力機関

本研究のテーマに関して、下記の研究協力機関にご協力をいただいた。

福岡教育大学・障害児教育講座・附属治療教育センター

宮崎県教育研修センター（研究協力担当者：酒井裕市）

3) 研究協力者

また、本研究を実施するに当たり、研究協力者として、下記の方々のご協力をいただいた。

木船憲幸（福岡教育大学・教授）

石坂郁代（福岡教育大学・教授）

長尾公美子（徳島県教育研修センター・研修主事）

田村順一（神奈川県立平塚ろう学校・校長）

小田浩一（東京女子大学・教授）

伊藤英一（長野大学・助教授）

島 治伸（文部科学省・特殊教育調査官）

4) 執筆協力者

磯田真一氏には、障害のある人の立場からアクセシビリティの課題について執筆していただいた。

また、教育センターにおける e ラーニングの利用について、下記の教育センターのご協力をいただき、下記の教育センターから取組事例を執筆していただいた。

三重県総合教育センター

和歌山県教育研修センター

滋賀県総合教育センター

Ⅲ 研究の経緯

本研究は、平成 16 年度の単年度計画で行われた。

1) 研究分担者会議の実施

所内研究分担者による会議を週 1 回の頻度で実施した。この研究分担者会議において、研究の進め方や各重点テーマに関する研究の進捗状況について報告を行い、意見交換を行った。研究分担者会議で取り上げたテーマに関する資料については、研究所 Web サイトに掲載されている。

2) 研究協議会の実施

外部の研究協力者を交えた研究協議会は、年間 2 回開催した。

第 1 回は、平成 16 年 6 月 25 日に実施し、研究協力者、研究協力機関の協力担当者、研究の趣旨・目的、及び研究計画について説明を行い、このプロジェクト研究における研究協力内容について、意見交換を行った。

第 2 回は、平成 16 年 11 月 11 日に実施し、研究の進捗状況について報告し、協議を行った。まず、Web による情報提供の状況に関する調査結果について報告した。次に、e ラーニングを利用したモデル講習会について報告した。さらに平成 17 年 3 月に刊行予定の報告書の目次案及び今後の予定について説明を行った。

3) 各重点課題についての研究活動

所内研究分担者は、それぞれの重点課題について研究活動を行った。これらの研究活動については、上述の所内研究分担者会議で報告し、協議を行った。

4) 報告書の作成

上記の研究活動のまとめとして、研究報告書の作成を行った。

Ⅳ 報告書の構成

本報告書は、以下の構成となっている。

続く第 2 章では、情報提供体制の在り方に関する検討について報告を行っている。ここでは、まず、教育委員会、教育センター・特殊教育センター、盲・聾・養護学校の Web サイトによる情報提供に関する調査結果について報告している。次に、県の教育センターの立場から、情報提供体制における役割と情報提供の在り方について述べている。さらに、学校の立場から、盲・聾・養護学校に求められるセンター的機能と情報提供の在り方について述べている。

第 3 章では、Web による情報提供において重要な課題となる、Web アクセシビリティの向上に関する報告を行っている。ここでは、まず、Web アクセシビリティ対応の課題について述べている。次に、盲・聾・養護学校 Web サイトのアクセシビリティの現状に関する調査結果について報告し、考察を行っている。

第 4 章では、e ラーニングの活用に関する取組について報告している。まず、このプロジェクト研究の一環として行った 2 つのモデル講習会について報告している。それらは、1) 平成 16 年度障害のある子どものための情報・支援技術講習会、2) 盲ろう重複障害担当教員講習会、である。また、研究協力機関である福岡教育大学における教員養成大学としての e ラーニング活用の取組について報告している。さらに、第 2 章で報告している Web サイトによる情報提供に関する調査で、e ラーニングを利用しているという回答があった教育センターのうち、1) 三重県総合教育センター、2) 和歌山県教育研修センター、3) 滋賀県総合教育センター、の 3 つの教育センターにおける取組について報告している。

第 5 章では、海外の動向について触れており、海外

における障害のある子どもの教育に関する情報提供について概観している。第6章では、障害のある子ども

の教育の充実に資する情報提供体制を構築していく上での今後の展望と課題について考察を行っている。

